

埼玉県現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会 様々な危機への対応と未然防止の体制づくり ～いじめ・不登校への適切な対応と体制づくり～

令和7年11月19日
川口市小学校長会

1 はじめに

いじめや不登校等の問題は、全国的に増加傾向にあり、社会的にも大きな問題として取り上げられる。保護者や地域の関心も高く、学校はいじめや不登校等の問題に、いつ起こり得るのかと危機感を強めなければならない。情報共有を密にし、職員間で連携しながら組織的に対応することが必要である。本校では、予防的取組に力を注ぎ生徒指導を行っている。特にいじめ防止、人権感覚の向上等の授業を推進しながら学校教育全体を通して適切な対応と体制づくりに取り組んでいる。

2 本校の概要

本校は、明治6年に開校し、今年で創立152年目になる。川口市のほぼ北部に位置している。学区内には、植木・園芸農家が点在し市内有数の緑豊かな環境であり、グリーンセンター等の公共施設もある。学区内には国道122号、第2産業道路、中央部を外環道が走っている。また、通学路には、細くて人通りの少ない道も多く、交通安全上、防犯上、児童の安全が心配される地域でもある。現在、児童数271名、学級数15学級、県費教職員数24名、通常学級12、特別支援学級3（知的1、情緒2）の小規模校である。

3 本校の実態と課題

川口市の郊外ということもあり経済的に貧困家庭も少なくない。（要保護家庭4準要保護家庭49）外国籍の児童は17名と近隣の学校と比べると少ない。（トルコ6中国5コロンビア2ベトナム2フィリピン、ブラジル各1）比較的教育に無関心な家庭が多く存在している。懇談会の出席は、クラスで数名ということも珍しくない。家庭の教育力も高くはない。子供を学校に送り出す力が弱い家庭も多く見かける。児童の学力も低く学力調査等では市内で最下位層にある。令和4年度は不登校児童の割合が市内小学校の中でも高く、令和5年度より、「ホットルーム設置モデル校」に指定された。令和7年度不登校・児童生徒加配教員が配置された。

令和4年度～令和6年度のいじめ認知件数及び不登校児童数は以下の通りである。

いじめ認知件数(件)

	R4	R5	R6
年間	103	80	69

不登校児童数(人)

	R4	R5	R6
年間	8	8	6

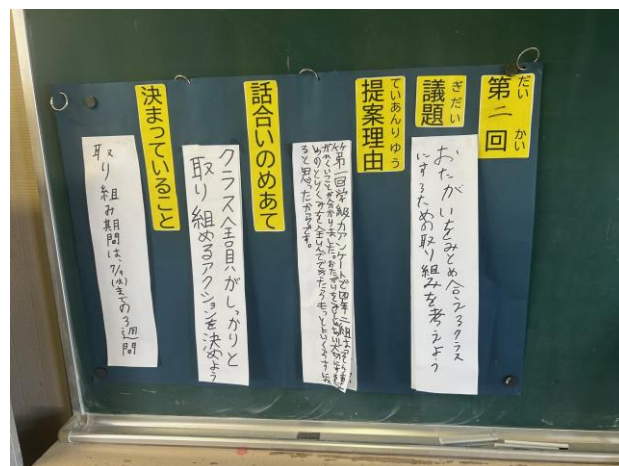
4 いじめ課題解決のための取組

いじめの問題については、重層的支援構造を意識した取組を実施している。令和7年度は「課題予防的生徒指導」に重点をおいている。学期1回以上は、「いじめ防止」・「人権について」授業を道徳や学級活動等を通して実施している。

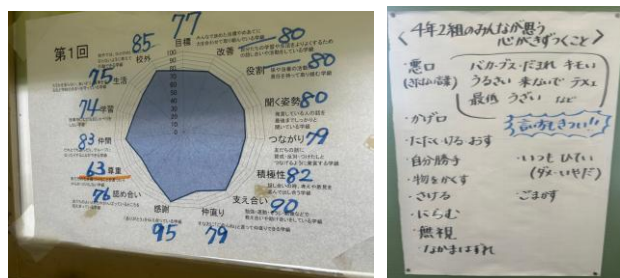
(1) 発達支持的生徒指導

人権感覚を磨くための授業を実施した。学級活動の授業では、学級アンケートを実施し、クラスの課題について話し合い今後のクラスの目標を立て学級経営を行っている。この学級では「尊重」（友達の心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級）のポイントが低くそれを改善するための話し合いを行った。授業後も視覚化し継続して指導している。

【学級会の様子】



【学級活動後の掲示物】



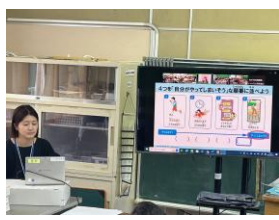
(2) 課題未然防止教育

6月～7月に全クラスでいじめ防止の授業(道徳、学級活動等)を実施した。

【6年生の道徳の授業】



【ネットモラルの授業】



令和5年度にSNS上でのトラブルが発生したため1～6年生まで外部講師を招聘し、SNS教育を実施している。また、ライフスキル教育を実施し問題に直面した時のより良い解決法について学んでいる。

(3) 課題早期発見対応

川口市では今年度より「心の健康観察」を実施している。(本校では週1回実施)タブレットを用い自分の心の健康状態を知らせたり相談したりできるようになっている。月1回のいじめアンケートと併用し早期発見に取り組んでいる。子供の心の状況を客観的にとらえることに役立っている。また、家庭不和等の状況もキャッチすることができ児童理解に繋がっている。

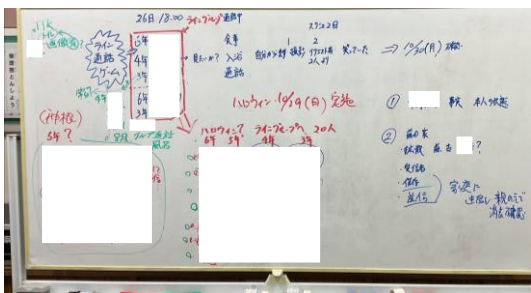
【心の健康観察】



(4) 困難課題対応の生徒指導

問題が複数学年に及ぶものや児童同士のトラブルにより欠席が続いた等の重大な事案についてはケース会議を行いチームで対応している。ホワイトボードを用い情報を整理し役割を決め指導を行っている。

【ホワイトボードを用いての会議】



5 不登校児童への取組

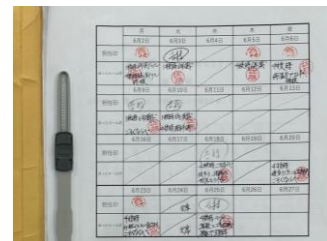
令和7年度不登校対策担当教員が配置された。本格的に「ほ

っとルーム」の活用が進んでいる。不登校児童への支援率100%を目指し不登校対策担当教員、生徒指導主任を中心に連携して取り組んでいる。児童一人一人の困り感に合わせ柔軟に対応している。また、個別のファイルを作成し、学習の記録を残し、努力の跡を「見える化」し、担任との連携に役立っている。

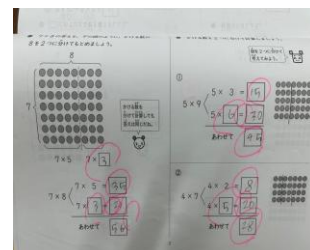
【ほっとルーム】



【個別ファイル】



【個に応じた学習】



「ほっとルーム」は、児童の支援だけでなく、人と人をつなぐ場として活用している。オセロや将棋等を常備し、不登校児童と担任だけでなく不登校児童と他の職員とも交流をしている。児童が「ほっと」できる場を目指して運営している。

6 まとめ

始業式の校長の講話では「いじめは絶対に行ってはいけない」という内容の話をし、職員で4月の学級開きでいじめの指導を行った。6月から7月にかけていじめを題材にした授業を取り扱うことを共通理解した。

その結果、いじめの認知件数は、6月末現在例年の4分の1程度にとどまっている。学校全体でベクトル合わせ取り組むことで、子供たちの人権感覚を磨き、いじめの問題を減少させることはできるのではないかと考えている。

不登校対策では、不登校対策担当が着任し充実した取り組みを行っている。昨年度年間欠席が100日を超えていた児童が現在欠席をしないで登校している。また、前任校で1年間出席できなかった児童も転入を機に元気に登校している。確実にいじめ、不登校の成果は出ているようである。しかしながら、本校の不登校の児童の実態は根深く保護者との話し合いが進まない等の課題もある。

今後は、不登校対策により力を注ぐとともに、自らSOSを出せる教育などを学校全体として取り組み、全員の子供たちが安心して登校できる学校にしていきたいと考えている。